

にいみなんきち に かえる  
新美南吉 『二ひきの蛙』より

「二ひきの蛙（に）（かえる）」をよみながら、  
は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを（）（のなかに  
かきましよう。）

みどり かえる きいろ かえる  
緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいま  
した。

「やあ、きみ（）（きいろ）黄色だね。きたない色だ。」  
みどり かえる  
と緑の蛙がいました。

「きみは緑だね。きみ（）（みどり）（じぶん）（うつく）美しいと思っているの  
かね。」

きいろ かえる  
と黄色の蛙がいました。

こんなふう（に）話（はな）しあっていると、よいことは起（お）こりません。二ひきの  
蛙（かえる）はどうとうけんか（）（はじめました）。

みどり かえる きいろ かえる うえ  
緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙（かえる）は  
とびかかると（）（とく）得意（とく）でありました。

きいろ かえる すな  
黄色の蛙はあとあしで砂（すな）（）（けと）はしましたので、あいてはた  
びたび目玉（めだま）から砂（すな）（）（は）らわねばなりませんでした。

こたえ

緑の蛙みどり かえると黄色の蛙きいろ かえるが、はたけのまんなかでばったりゆきあいしました。

「やあ、きみみどりは黄色きいろだね。きたない色いろだ。」

と緑の蛙みどり かえるがいました。

「きみは緑みどりだね。きみはは（じぶん）をを（美しいうつく）と思おもっているのかね。」

と黄色の蛙きいろ かえるがいました。

こんなふうはなに話はなしあっていると、よいことは起おこりません。二ひきの蛙かえるはどうとうけんかを（はじめました）。

緑の蛙みどり かえるは黄色の蛙きいろ かえるの上うえにとびかかっていきました。この蛙かえるは

とびかかるのとく（が）得意とくいでありました。

黄色の蛙きいろ かえるはあとあしで砂すな（を）けとばしましたので、あいてはた

びたび目玉めだまから砂すな（を）はらわねばなりませんでした。